

日本オーガニック株式会社

【事業概要】各種有機原料を主体とした配合・ペレット肥料・土壌改良資材の製造・卸販売、各種化成肥料の卸販売
有機原料・乾牧草の輸入・販売/農業資材・農業卸販売、こだわり農作物の販売

製品の品質向上とコスト削減を目指し 製造体制の強化を図る

HISTORY



左から水谷久美子社長、森忠工場長、梶尾直樹工場長補佐

土から口までの 一貫ビジネスを目指して

肥料と土の専門家として、農業の現場が抱えるさまざまな課題をクリアするために、最適な土壌づくりを目指して、肥料の提案から企画、製造流通までを自社内でトータルに行う日本オーガニック社。

静岡県という土地柄から良質な魚粉を主な原料とし、有機系原料を中心に250種以上の各種原料を用途ごとに配合。細かい注文にも対応できるよう、最新鋭の設備を備えた配合工場を持ち、高品質な肥料を確実に安定供給している。

事業の視点を「従来の“大量生産のための農産物づくり”ではなく“求められる農産物づくり”とし、“土から口までの一貫ビジネス”というグループの10年ビジョンを掲げています」と水谷久美子社長。土に関わる事業として平成18年に農業生産法人(株)うまヘルシーを立ち上げ、トマトの生産から販売を通し、企業体の農業経営自立ビジネスモデルを目指している。また、口に関わる事業として「産直旨味処 縁むすび」を開店させるなど、新規事業を積極的に展開中だ。

TURNING POINT



配合肥料製造ライン

会社の致命的なダメージとなる 異物混入を防ぎたい

多種多様な原料を扱っていることは、同社の強みである一方で、原料の多くは価格の高騰により国内調達が難しく、インドネシアやアフリカなど海外からの輸入に頼らざるを得ない傾向にあるという。

そこで、新たな課題として浮上したのが、肥料原料に混入した袋の切れ端やビニールといった異物だ。

異物の混入は製品の信頼を失い、会社の致命的なダメージになってしまう。これらの異物除去にはメッシュを導入したり、手作業で一つひとつ取り除いたり、大変な労力を費やしているのが現状だ。

「お客さまに自信を持って提供したいので、原料を原体のままでも輸入・仕入れし、要望に従って粉碎しています」と森忠工場長。異物除去に手間はかかるが、そこは創業以来ゆずれない品質へのこだわり。効率的な異物除去方法の模索が始まった。



□本社所在地／静岡市葵区
流通センター11-10
□設立／昭和5年
□資本金／62,000,000円
□従業員数／40人
<http://www.nihon-organic.co.jp>

原料異物除去装置一式。配合肥料製造ラインに設置し、原料に混入する軽量異物に活用

開発新製品
新技術



INNOVATION



整理整頓された工場内。ISO取得に向けて管理を徹底

原料異物除去装置と 最新パレタイザーロボットを導入

課題をクリアするには、新たな設備投資が必要になった。銀行から中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業(ものづくり補助金)の提案があり、書類は水谷社長が自ら作成したという。

「審査をするのは専門家。プロに認めてもらえるかどうか試してみたい気持ちもあった」と水谷社長。採択されたことで自信が得られたと笑顔を見せる。

今回の補助金では、原料異物除去装置と最新パレタイザーロボットを導入。異物除去装置によりダブルチェックの必要がなくなったため、残業時間が削減。加えて配合肥料製造時に問題となっていた粉末除去にも大きな効果を発揮した。期待以上の成果を得られたようだ。

また、最新パレタイザーロボットの働きにより、積みつけ精度が向上し、製造スピードがアップ。多種多様なパレットへの対応も可能になった。

CHALLENGE



平成15年より販売先向けに「元気がでる勉強会」を定期的で開催

女性も働ける職場環境づくり 社員のモチベーションもアップ

今回の設備投資により、配合肥料の品質向上とコスト削減による低価格維持が可能になり、ひいてはそれが、農業者へ大きく貢献することにつながるという。

「今後は当社の心臓部である工場勤務についても、男女の隔てなく雇用を伸ばしていきたい」と意欲を見せる水谷社長。高速ロボットにより力仕事が軽減され、また、異物除去装置により労働が標準化されれば、女性が働きやすい職場環境づくりが可能になる。農業への貢献と女性の雇用は地域貢献につながる。

また、二次的効果として、水谷社長は「社員の意識が高まった。自信を持って売れる。これまで苦手分野だった5Sを徹底。ISO9001:2015取得にもつながった」と喜びを語ってくれた。